

智環啓蒙和解

中

特37-993



1200600178906

特37

993

特37 9934
特43 4434
明治十一年一月十四日贈付石川縣

物類

第八篇 飛禽ノ論

第一章 飛禽ノ總論

動物蛋ヨリ出ルモノヲ、卵生ノ物ト名

ク、鳥、虫等ノ如シ、飛族ハ即チ鳥ナリ

鳥、喙、羽、翼、尾、足、リ、足ニ趾及ヒ爪アリ

喉ノ下ニ餌袋アリ、鳥ノ中ニ頭ニ冠

ヲ具ル者アリ、毛ノ鬣^{カウラ}又垂ル者アリ

智環啓蒙和解卷之中

東京城會博物館

類屬冊函行級
七 一 四 三 八 九

智環啓蒙和解 卷中

地ヲ歩ム者アリ、樹ニ昇ル者アリ、枝ニ
止ル者アリ、水ニ游ク者アリ、
第六十二章鳥ノ類ヲ異ニスル
ノ論
鷓鴣ハ生物ヲ捕ヘテ食ヒ、啄木鳥上
ニ拙ナク、雞類ハ地上ヲ走り行ケル、高
ク飛フ、能ハス、鴛鳥ト鷓鴣ハ走ル
極テ速カク、力アリ、總テ脚長キ鳥ハ水澤ヲ

涉リ、蹶アル鳥ハ善ク水ニ游ク、
第六十三章諸鳥生質ノ論
烏鴉ハ群ヲナシ、巢ヲ構テ同居シ、鶇ト
雀ノ類ハ味甚ク硬ク、交喙鳥ハ松球ヨ
リ實ヲ抜テ食ヒ、燕ハ細虫ヲ餌トシ、啄
木鳥ハ餌トスル小虫ヲ驚カサンカ為
シ、樹皮ヲ啄キ、鴟ハ夜ニ乘シ物ヲ捕ヘ、
杜鵑ハ卵ヲ他鳥ノ巢ニ放チ置ク、
第六十四章諸鳥生質ノ續論

智叢故蒙和解 卷中

二

駝鳥ハ疾ク走ル
 馮ノ飛カ如ク水ヲ
 涉ル鳥ハ頭長ク、鶴
 ハ蛇ヲ殺シ、海鵝ハ
 海鳥ノ至大ナルモ
 人、鷲ハ飛フヲ甚タ
 疾ク、戰船鳥ハ歩ミ
 游クヲ共ニ難ケレ
 高ク飛フヲハ長ス、



企鵝ハ翼小ニシテ、行クヲ拙ナケレ
 水ニ游クニハ長ス、

第六十五章 鳥羽ノ論
 鳥ノ羽毛ハ、長短大小アリテ一様ナラ
 ス、皆輕ク柔ラカニシテ強ク甚タ美麗
 ナル羽アルモ、ア、山雞、孔雀、各種ノ



風鳥、鷲、鷹、如ク、鳥ハ年々舊キ
 羽毛ヲ抜キ、新ナル

羽ヲ出ス之ヲ毳ヒ十名ツク

第六十六章 鳥巢ノ論

鳥ハ巢ヲ作り蛋ヲ置キ子ヲ育ス其巢

ノ品ハ一ナラス皆樹枝、棉、草等ノ物ナ

リ、小鳥ノ中ニ甚タ巧ミテ巢ヲ生籬ニ

造ルモノアリ、燕ハ巢ヲ屋簷ニ構ヘ、

鳥ハ巢ヲ作ラス、蛋ヲ沙中ニ生ミ、鶯ハ

巢ヲ高キ岩ノ上ニ構ヘ、海岸ノ

峻シキ岩ニ巢ヲ造ル

第六十七章 鳥聲ノ論

鳥ハ大抵聲ヲ發シ其聲各異ナリ、牡雞

ノ聲ハ「ク」ロ「ー」ニ、牝雞ノ聲ハ「ク」ラ「ッ」ク「ニ」

鵝ノ聲ハ「ク」ク「ル」ニ、又大聲ニ「ク」ク「ア」

リ、鴨ノ聲ハ「ク」ク「ア」ク「ニ」、鳩ノ聲ハ「ク」ク「ニ」

燕ノ聲ハ「ツ」イ「ッ」ク「ニ」、山鳥ハ其聲笛ノ音

ノ如シ、鳥ノ快クシテ囀ツルモノハ、百

舌鳥、畫眉鳥等ナリ、春ニ至リ諸鳥始メ

テ囀リ出ス

第六十八章鳥ノ時ニ隨テ居所
古ハ易スルノ論
鳥ハ中ニ時候ニ應シテ居所ヲ易フル
モノアリ、燕、鵲、鵲等ハ、春ニ當リ英國ニ
到リ、秋ニ向ヘハ去テ復タ暖ナル國ニ
往キ冬ヲ過ク、又鵲、雁、野鴨等ノ如キハ
冷ナル國ヨリ移リテ英國ニ到リ冬ヲ
過ク、此等ノ鳥ハ、居所ヲ變スル時ニ廣
キ海ヤ大ナル地ヲ涉リ越ス

第六十九章有用ノル鳥ノ論
鳥肉ノ食フヘキ者數多アリ、鷄、鴨、鵲、鵲
鳩、山雞、鳩、雲雀等ノ如シ、鴨、鵲、鵲ノ織毛
ト毛ハ、蒲團ニ用フヘク、鵲ノ大毛ハ、西
洋ニテ其管ヲ削リテ筆トナシ、鳥ノ羽
管ハ、細微ノ書ヤ畫ヲ書ク時ニ用井ル
第九篇虫及魚ノ論
第七十章匍匐虫ノ論
匍匐虫ノ血ハ魚ノ如ク、色赤ク冷力ナ

リ、禽獸トハ同シカラス、匍匐虫ノ水ニ
入り陸ニ上リ、兩様ナカラ不可ナキモ
ノ甚タ多シ、脚ヲ具ルモノアリ、蛙、蟾、蜍、
蜥、蜴、鱉、龜ノ類ノ如シ、脚無クメ腹行ス
ルモノアリ、蛇ノ類ノ如シ、且蛇ノ中ニ、
毒アル者少ナカラズ、
第七章 匍匐虫異性ノ論
匍匐虫ノ中ニ、其皮滑ラカナルモノアリ、
リ、盾ノ如キ甲ニテ其身ヲ蓋ヒ、肉體ヲ

保護スルモノアリ、龜ノ甲ハ極テ硬シ、
海亀ノ中、玳瑁ト名ツクル者ハ、其甲極
テ美ニシテ、梳、櫛等ノ器ヲ造ルヘク、其
外脚魚ト名ツクル者ハ、肉
ノ味甚タ好シ、蜥、蜴ハ大抵
人申害ナク、蛙ハ暖カナル
雨ニ後ニ、多ク頭ハ出ス
魚類ノ海、河、川、湖、中ニ居ル其皮滑ラ



脚魚

カチルモノアリ、鱗ヲルモノアリ、魚ノ骨ハ柔ニシテ色白シ、魚類ハ數千人卵ヲ生ム之ヲ魚子ト名ク其卵ハ海河泥ノ中ニテ魚トナル總テ魚類ニハ聲ヲ

第七十三章 食用トナル魚類

美ノ論

海魚、河魚、俱ニ食料ニ用井ヘシ、人ノ食ヲ所ノ海魚ニテ大切ナルモノハ鱸、鱠

鯖、馬鮫、郎、鮓、鱒、石斑魚、鞋底魚等ナリ、河

魚ニテ有用ナルモノハ鰻、鱒、鯉、鱔生

魚、鰻等ナリ、魚類ノ中ニテ、鰻ハ極テ食

ヲ貪ルモノナリ、其類ハ其類ニテ、其類ニ

第十篇 虫類 蜘蛛類ノ論

第七十四章 小虫ノ論

虫ハ六足アリ、唯蜘蛛ト蠍トハ八足

アリ、其ノ身ヲ頭、胸、腹ハ三部ニ分ツ、其

ノ尾ニ針ヲ具ルモノアリ、黄蜂、蜜蜂、木

蜂等ノ如シ、通常ノ虫ハ、蠅、燈蛾、胡蝶、甲
虫、蟻、蜜蜂、黃蜂、蠹魚等ナリ、特ニ昆虫ノ
第七十五章虫ノ變化ノ論
虫ノ形ヲ變スルモノ數度ニテ、其中ニ
三度形ヲ變スルモノ多シ、其虫ハシメ
小ツキ卵ノ内ニ居リ、其卵變シテ虫ト
ナリ、其虫次第ニ成長シ、既ニ十分ノ大
サニ至リ、復タ次第ニ縮ミ固クマリ、遂
ニ變シテ蛹トナリ、其後ニ蛹破レ開キ

テ、翼アル虫トナリ、其虫卵ヲ生ズテ早
ク死ス、
第七十六章有用ナル虫ノ論
虫ハ種々ノ仕方ニヨリテ、有用トナル
モノナリ、蜂ハ能ク蜜ヲ釀シ蠟ヲ結ヒ

コチニ一ルフイツク、
コチニ一ルト云フ、此蟲ヲ採ラシカ多ク中心並
利加及ヒ南亞墨利加ニ於テ多ク之ヲ種々作ル
昔ハ人皆木ノ實ナリト思ヒシ今ハ此蟲ナルヲ
ラシル、



蚕ハ能ク糸ヲ吐キ、
蠶繭虫ハ畫家ヤ漆

工ノ用井ル呀喃米ヲ成之、一種ノ蟲ハ

墨水ヤ黒キ繪ノ具ヲナスニ用井ル五

楛子ヲナシ、紫柳皮ハ、封蠟ヲ造ルヘキ

樹脂ヲ産ス、

第七十七章 蛭及貝類ノ論

蛭類ト貝類ノ動物ハ、身柔カニシテ骨

無シニ、環ノ肉カ、又ハ穀子ヲ以テ身體

ヲナス、蚯蚓ト水蛭ハ環ノ肉アリ、蠣ト

蝸牛ハ穀子アリ、柔カナル質ノ動物ハ、

山ニ居ルモノアリ、蝸牛等ノ如シ、水ニ

居ルモノアリ、蠣類ノ如シ

第七十八章 蛭類貝類有用ノ論

柔カナル體質ノ動物ノ中ニ、蚯蚓ハ土

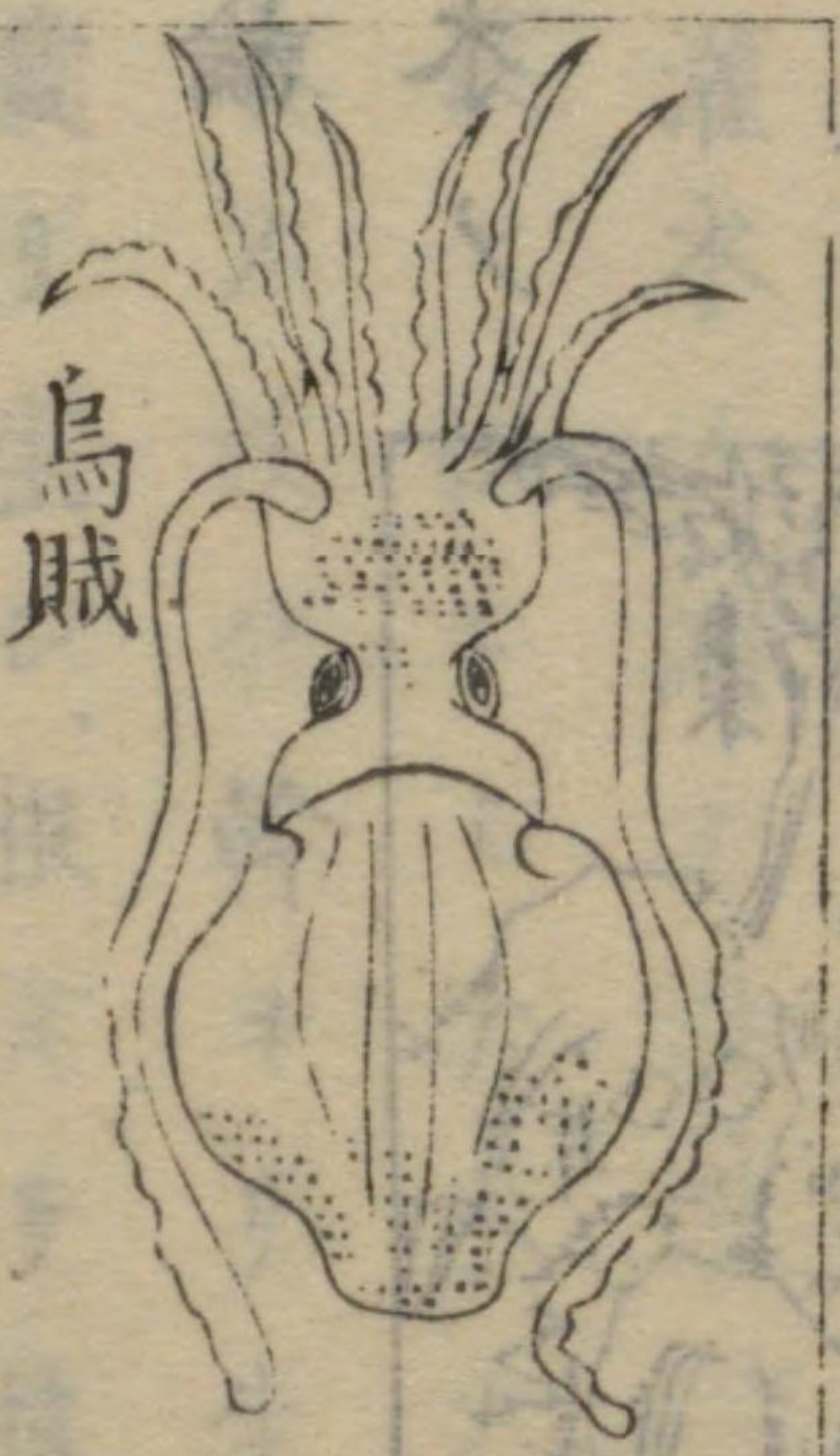
ヲ潜リ行キ、硬キ土

ヲ弛ルメ、水蛭ハ醫

術ニ用ヒテ血ヲ吸

ハ、カトラス鳥賊ハ黒粉

ヲ作シ、カトラス黒キ汁ヲ出シ、蠣殻ハ真珠



鳥賊

生云、雲母、穀、鈕子及七飾、物、作

第十一篇草木ノ論

第七十九章草木ノ

種類ノ論

草木ノ中ニ真木、灌木、草、

菜、鳳尾、苔、茸、菌、了り、菌ノ

類、地、ヤ、朽、タル、木ノ上

ニ生、云、尊ノ類、八、樹、ヤ、石



上ニ生、云、苔ノ類、八、林中、ヤ、古キ、壁ニ

生、云、草ノ類、八、野ニ、生、云、鳳尾ノ類、八、多

夕日陰ケノ處ニ生、云、菜、ト、花、八、園、ニ、生

、真木、灌木、八、林中、ヤ、樹、園ニ、生、ス、八

、真木、第八十章真木、灌木ノ論、八

、真木、ト、灌木、八、幹、モ、枝、モ、根、モ、ミ、ナ、木、ト

リ、之、ヲ、分、テ、言、ハ、真木、八、枝、八、幹、ヨリ、生

、灌木、八、矮、カ、以、テ、叢、リ、生、云、根、ヨリ、枝

ヲ、生、ス、總、テ、木、外、類、八、園、圍、ノ、内ニ、生、ス

ルモ、人、所、リ、山、林、ノ、中、國、生、ス、ル、モ、人、ア、
 リ、人、木、木、ヲ、栽、ル、ニ、園、ヲ、飾、ル、モ、ア、リ、果、
 ヲ、採、ル、モ、ア、リ、材、木、ヲ、取、ル、モ、ア、リ、
 第、八、十、一、章、林、木、ノ、論、
 林、木、ノ、有、用、ナ、ル、甚、タ、多、シ、松、ヤ、杉、等、ノ、
 樹、ハ、家、ヲ、建、ツ、ル、材、木、ト、ナ、ス、全、ク、捺、ノ、
 樹、ハ、艦、ヲ、造、ル、ヘ、ク、榆、ノ、樹、ハ、汲、水、筒、ヤ、
 水、車、ヲ、造、ル、ヘ、ク、槐、ノ、樹、ハ、道、具、ノ、柄、ニ、
 造、ル、ヘ、ク、山、毛、擗、ノ、樹、ハ、椀、ニ、作、ル、ヘ、ク、

胡、桃、ノ、樹、ハ、鏡、ノ、臺、ニ、作、ル、ヘ、ク、菩、提、樹、
 ハ、彫、物、細、工、ニ、用、井、ヘ、ク、梨、ヤ、棗、ノ、樹、ハ、
 書、畫、ヲ、彫、刻、ス、ヘ、シ、
 第、八、十、二、章、穀、草、ノ、論、
 草、類、ノ、寂、モ、貴、キ、モ、ノ、穀、草、ナ、リ、穀、
 粒、ノ、儘、ニ、テ、食、ヒ、又、挽、テ、粉、ト、ナ、シ、テ、モ、
 人、ノ、生、命、ヲ、保、ツ、ル、ニ、口、ニ、穀、草、ハ、高、ク、
 地、ノ、上、ニ、生、シ、其、莖、ハ、堅、ク、シ、テ、滑、ラ、カ、
 三、輕、ク、シ、テ、肉、ヲ、空、ナ、リ、穀、ハ、諸、方、ノ、邦、

三生之穂ニ在ル時ハ、糠皮ニ着實ヲ包

入第ハ十三章蔬菜ノ論、草ノ高ハ

園圃ニ諸種ノ蔬ヲ産ス、皆人人食用ニ

宜シ、極テ通常ノ菜ハ、薯、椰菜、花椰菜、蘿

蔔、紅蘿蔔、火焰菜、莧菜、葱頭、天門冬等ノ

如キナリ、他物ニ副ヘ不熟ニテ食フヘ

キモノアリ、芥菜、水芹、生菜、蘿蔔等ノ如

キナリ、食ニ味ヲ付ルモノアリ、薄荷、尚

片紫菀等ノ如キナリ、園圃ノ内ニ於テ

世人豆、瓜ノ數類ヲ植ル、

第ハ十四章藥草ノ論、其數多ク、其

草木ノ藥品ニス、介キモノ、數多ク、其

中ニ根ヲ用井ルモノアリ、大黃、甘草ノ

如ク、花ヲ用井ルモノアリ、甘菊ノ如ク、

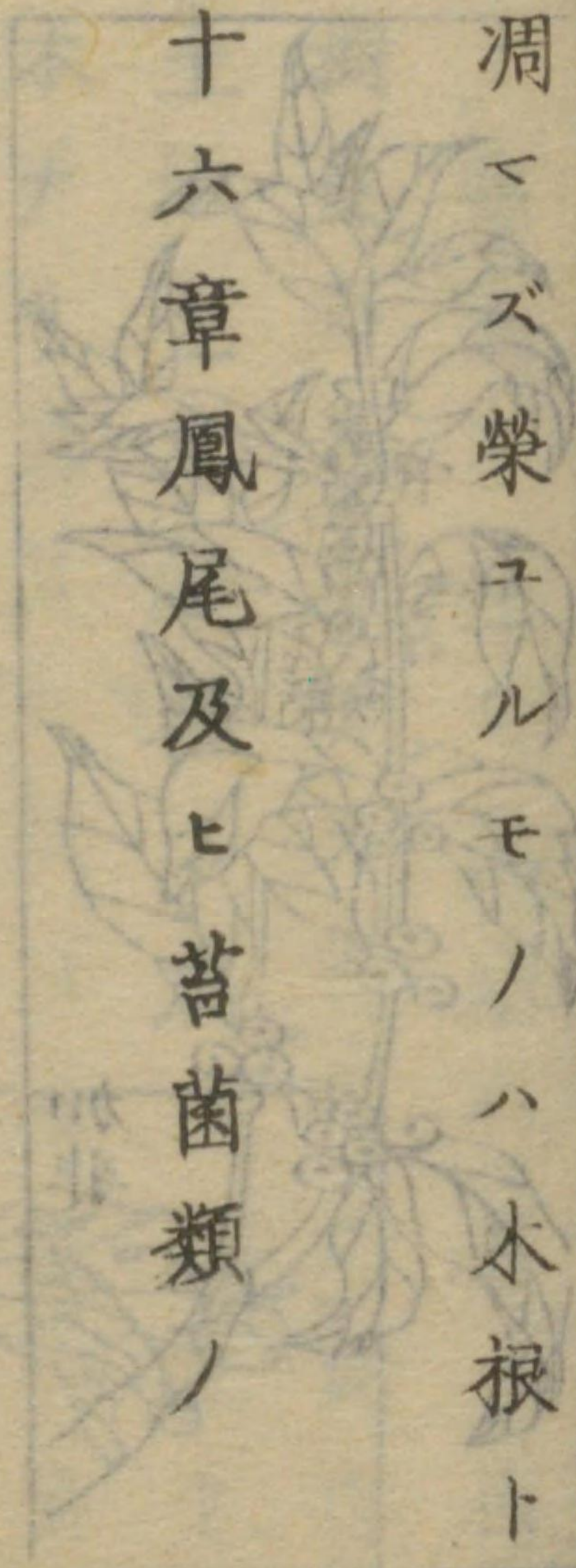
樹皮ヲ用井ルモノアリ、肉桂ノ如ク、汁

ヲ用井ルモノアリ、罌粟ノ如ク、葉味用

井ルモノアリ、枇杷、紫菀ノ如ク、仁ヲ用

井ルモノ下リ、桃^ノ如^シ、枝^ヲ用^サ井ルモ
ノ下リ、桑、桂ノ如^シ、諸般ノ藥品、初^メ
採^ル藥、渡^リ世^ノ者、採^リ集^テ製^シ、然^ル後
藥店ヨリ售^リ出^ス、
中ニ第八章、十五章、園中花草ノ論、
園中ニ植^ル所^ノ花ニ、薔^{イハ}薇^ラ花、夜^子合^ノ花、向
日^ク葵^ル、菊、茶、杜^ツ鵑^シ花、海棠、夾^ノ竹、桃、茉莉、指^ノ甲、
牡丹、其他數多^ク、
中^ニ年々枯^ルル^モノハ、草根^ノ名

ツク、歷年凋^マズ、榮^ユル^モノハ、木根^ト
名^ツ久^ク、
第八章、十六章、鳳尾及ヒ苔菌類ノ
論



鳳尾類ノ中ニ食^フヘキ^モノアリ、家畜
ノ寢^ニ藁^ニ代^ヘ用^サ井^ヘキ^モノアリ、屋根
ヲ葺^クヘキ^モノアリ、苔^ノ中ニ藥^ニ用^ス
井^ヘキ^モノアリ、葺^クノ中ニ漆^ノ料^ニナ^ス
ヘキ^モノアリ、木^ノ葺^クノ中ニ食^フヘキ^モ

ノアリ、併シ毒アリテ食ヒ難キモノモ
 アリ、カ、茶、ト、レ、ハ、
 第八十七章有用ナル草木ノ論
 上ニ論スル所ノ穀ト菜ノ外、數多ク食
 物ハ皆草木ヨリ出ツ、茶、加非種々ノ香
 料、砂糖、糖
 蜜、藕粉、砂
 穀米ノ如
 シ、麩果ノ



加非

樹ハ南洋ノ諸島ニ生シ、其木ハ屋ニ作
 ルヘク、其樹皮ハ布トナスヘ
 ク、其果ハ土人至要ノ糧ト成
 ル真ニ佳木ナリ
 第八十八章有用ナル草
 木ノ續論
 椰子ノ仁ノ内ニ涼カニシテ
 味美キ水アリ、其殼ハ椀ニナ
 スヘク、其殼ノ上ハ毛ハ蓆、繩、簾トナスヘ



菓 椰

久、其肉食之、久又搾リテ油トスヘ
以、椰ノ生スル國ニテハ富人ノ大廈、貧
人ノ小舎、共ニ椰ノ木ニテ建テ其屋根
ハ編ミタル椰葉ニテ蓋ヒナス

第八十九章 草木殊異ノ論

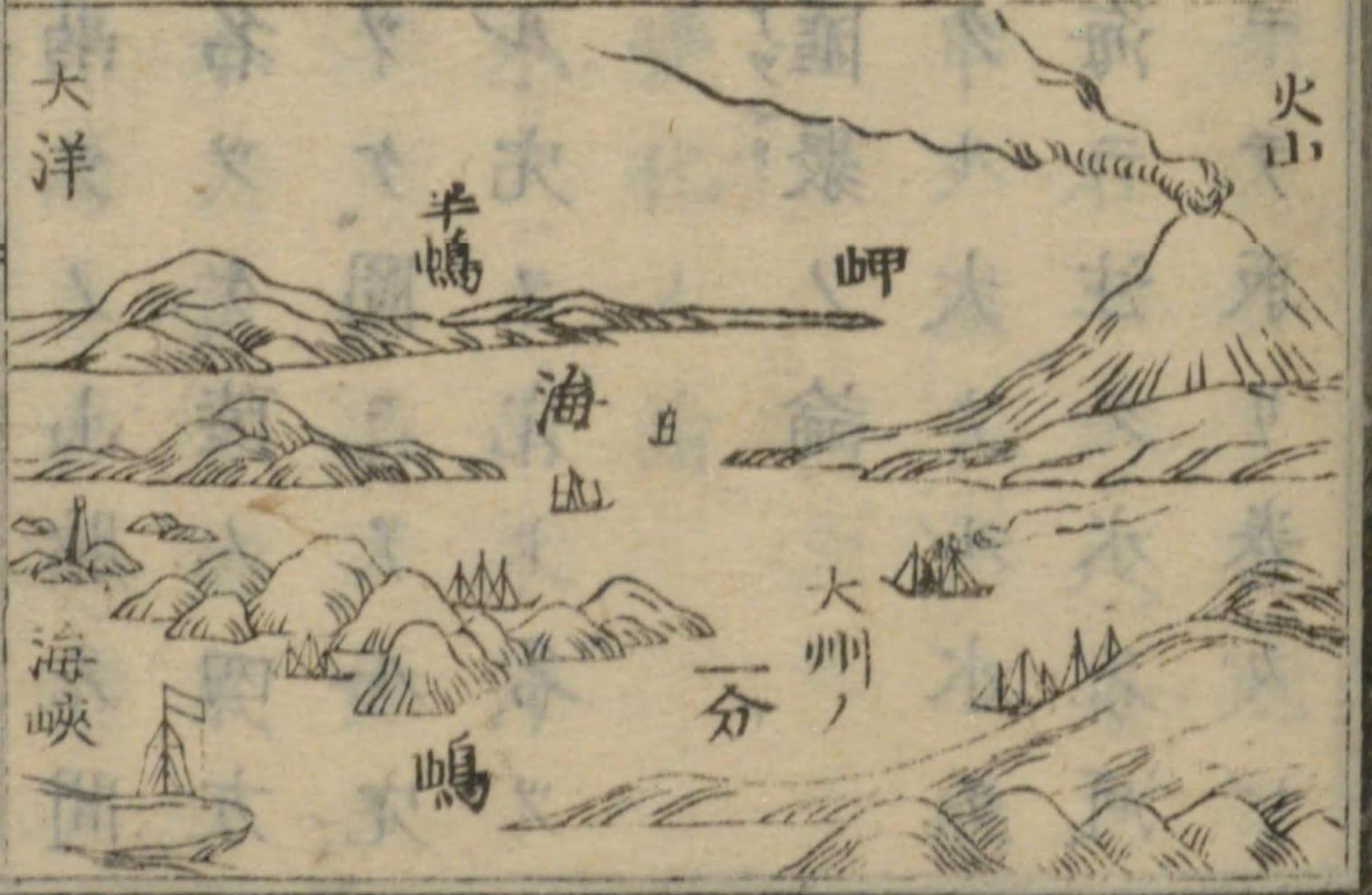
草木ノ根、幹等ノ處、互ニ同シカラズ長
ク尖リタル根アリ、纖緯ノ多キ根アリ、
木質ノ幹アリ、肉ニ穴アル幹アリ、髓ア
ルモノアリ、節々連ラナルモノアリ、其

葉ニモ、圓キ、角多キ、滑カナル、刺アル、香
アル等ノ別アリ、其花ニモ、色ヤ、形ヤ、香
ニ、各々ノ異ナルアリ、其子ハ、肉ヤ、殼ヤ、
筭ヤ、糠ノ内ニアリ、
第九十章 草木生長ノ論

草木ハ汁液ニヨリテ生長ス、根ノ極メ
テ小サキ者ヲ口ト名ツク、其根土中ニ
入り、吸フ所ノ汁氣ハ、幹ヲ通り枝葉ニ
届キ、一葉一枝モ、其養ヲ受テ長セサル

六、以草木ノ中ニ種子ヲ蒔クモノアリ、
 根ヲ分ツモノアリ、枝ヲ折テ地中ニ挿
 スモノアリ、
 第十二篇地ノ論
 第九十一章地面分形ノ論
 地形ハ圓體ニシテ一大球ト名ツクヘ
 シ、其面ハ水ト陸ニテナル、陸ノ部ニ原、
 山谷、島アリ、水ノ部ニ洋、海、湖、河アリ、地
 球ノ上ニ許多ノ國アリ、其國々ノ中ニ

城、邑、村、田、園、牧場、礦山、
 道、林、沼等アリ、
 第九十二章
 地ノ形ヲ扁タクシテ
 大ナルモソク原ト名
 ツク、平地ニ高ク聳ル
 モノヲ山ト名ツク、山
 ノ頂ヨリ火ノ發スル



モノヲ火山ト名ツク、兩ツノ山脉ノ間
ニ開キタル地ヲ谷ト名ツク、陸ノ四方
ニ水アル地ヲ島ト名ツク、岡ニアル穴
ヲ洞ト名ツク、地ニアル穴ト名ツク
地球ノ大洲ヲ引キ分クル大ナル水ヲ
洋ヤ海ト名ツク、洋ヤ海ニ注ク水ヲ河
又ハ川ト名ツク、陸地ニテ取り巻カレ

タル水ノ大ナル湖ト名ツク、地下
ヨリ湧キ出ル水ヲ泉ト名ツク、人毎ニ
泉ニ於テ井戸ヲ掘ル、卑ク濕リタル地
ヲ澤ト名ツク、金剛山ノ麓ニ在ル地
第九章 水ノ變化ノ論
水ノ凝リ固リタルハ氷ナリ、南氷洋ト
北氷洋ニ於テ、氷ノ高キト小山ノ如キ
モノアリ、太陽ノ熱ハ水ヲ蒸シテ氣ト
ナシ、氣ハ雲ヲ大シ、雲ハ雨ヲ降ラス、水ヲ

煮テ熱サ極マレハ其水ハ蒸氣ニ變ス
海人水ハ鹹カラクシテ飲ム下能ハス
飲用者水ハ色モ臭モ味モ力モ火ナ
用井ハ以テ固キ地ハ水ハ南水ナ

第九十五章地質ノ論

地ノ質ハ土、塩、金、礦物ノ類ニテ成ル、土
ノ種類ハ一様ナラス、砂、沙利、灰、粘土、白
粉等ノ如シ、砂ハ海邊又ハ砂坑ヨリ取
リ、沙利ハ沙利坑ヨリ取り、塩ハ通例礦

山ヨリ掘リ出シ、金、銀、銅、鉄、鉛、錫及ヒ石
炭、硫磺等ハ皆地ノ質ヲナスモノニテ
地中ヨリ掘リ出ス

第九十六章土類塩類ノ論

火石ハ硝子ヲ作ルニ用井ヘク、粘土ハ
煉化石ト瓦ヲ作ルニ用井ヘク、陶土ハ
鉢、碟ノ諸般ノ磁器ヲ作ルニ用井ヘク
蠟石ハ爐額ヲ作り、砥石ハ金物類ヲ磨
キ、白粉ハ畫料トナスヘキモノナリ、青

礬、白礬ハ染料トナスヘク、硝石ト木炭

火藥ヲ作ルニ用井ヘシ、金、銀、銅、鉄、錫、鉛

第九十七章 金類ノ論

人ノ常ニ用井ル金類ハ、金、銀、銅、鉄、錫、鉛

並鉛、水銀ナリ、金ト銀ハ寂モ貴クシテ

實金ト稱シ、其質ハ錆ヲ生セス、銅、鉄、錫

鉛並鉛ハ通常ノ物ニテ、其用立ツト寂

モ夥シ、鉄ハ堅ク、鉛ハ柔カニ、水銀ハ流

ル、モノナリ、金、銀、銅ハ貿易ノタメニ

鑄テ錢トナスヘシ、五、十、百、千、萬、其

第九十八章 燃ユル礦物ノ論

金類ノ外ニ、石炭、硫黄ノ如キ礦物ハ、亦

礦山ヨリ掘リ出ス、硫黄ハ色黄ニシテ

之ヲ燒ケハ其烟人ヲメ噎ハシム、石炭

ハ色黒シ、之ヲ燃ヤシテ薪ニ代フヘシ

石炭ノ中ニ數種アリ、石煤、木煤、宍煤、光

煤等ナリ、又石ヨリ出ツル油アリ、瀝青

ノ類ニテ石腦油ノ如シ、クワツ、エダラ

第九十九章金類用非方ノ論

鉄ハ重キ器械ヲ利刃ヲ作ルヘク、錫ハ
 錫箱ヤ燭臺等ニナスヘキ、薄キ鉄葉ブリツキニ
 鋪キ蓋フヘク、金銀ハ錢トモナシ、又貴
 キ飾リ物トモナスヘク、鉛ハ長筒ダマヤ水
 溜トナスヘク、又屋根ノ樋ヲ作ル、真鍮
 ヲ作ルニハ銅ト亜鉛ヲ混スヘク、
 第百章寶石ノ論
 貴クシテ美シキ石ヲ玉ト名ツク、其中

二數多ノ類アリ、碧玉、青玉、蒼玉、黃玉、綠
 玉、紫玉、葱珩、瑪瑙、貓兒眼、翡翠玉等ノ如
 シ、金鋼石ハ色無クシテ透キ通り、寶石
 中ノ至極貴キモノナリ、

第十三篇諸物質體ノ論

第百一章諸物三類ヲ分ツノ論

世人動物ヤ植物ヤ礦物ノ三類ヨリ、一
 切ノ品物ヲ取ル、此筆ハ鳥ノ翼ノ一羽
 二テ作ル、故ニ其質ハ動物ナリ、此紙ハ

布、木棉ニテ作ル故ニ其質ハ草木ナリ、
此小刀ノ柄ハ象牙ニテ作ル故ニ其質
ハ動物ナリ、併シ此小刀ノ刃ハ鋼ニテ
礦物ナリ、
第百二章 動物質ニ属スル入口

品ノ論

物ノ外邦ヨリ本邦へ運ヒ到ルモノヲ
入口貨ト名ツク英國ノ輸入品ハ動物
質ノ物多ク、羊毛、毛皮、粗皮、鳥羽、筆、鋼、絲

象牙、鯨骨、琥珀、角、獸脂、蠟、鯨精、蜜、革、豕毛、
蜚等ノ如シ、

第百三章 草木質ニ属スル入口

品ノ論

英國ノ輸入品ノ中ニテ、草木質ノモノ
ハ、材木、植物、樹皮、樹根等ナリ、擦木、杉板、
油木等ハ家ヲ建テ家内ノ什器ヲ造ル
ノ用ニ輸入シ、花梨木、緞木、烏木ハ奇麗
ナル木器ヲ作ルノ用ニ輸入シ、蕪枋ハ

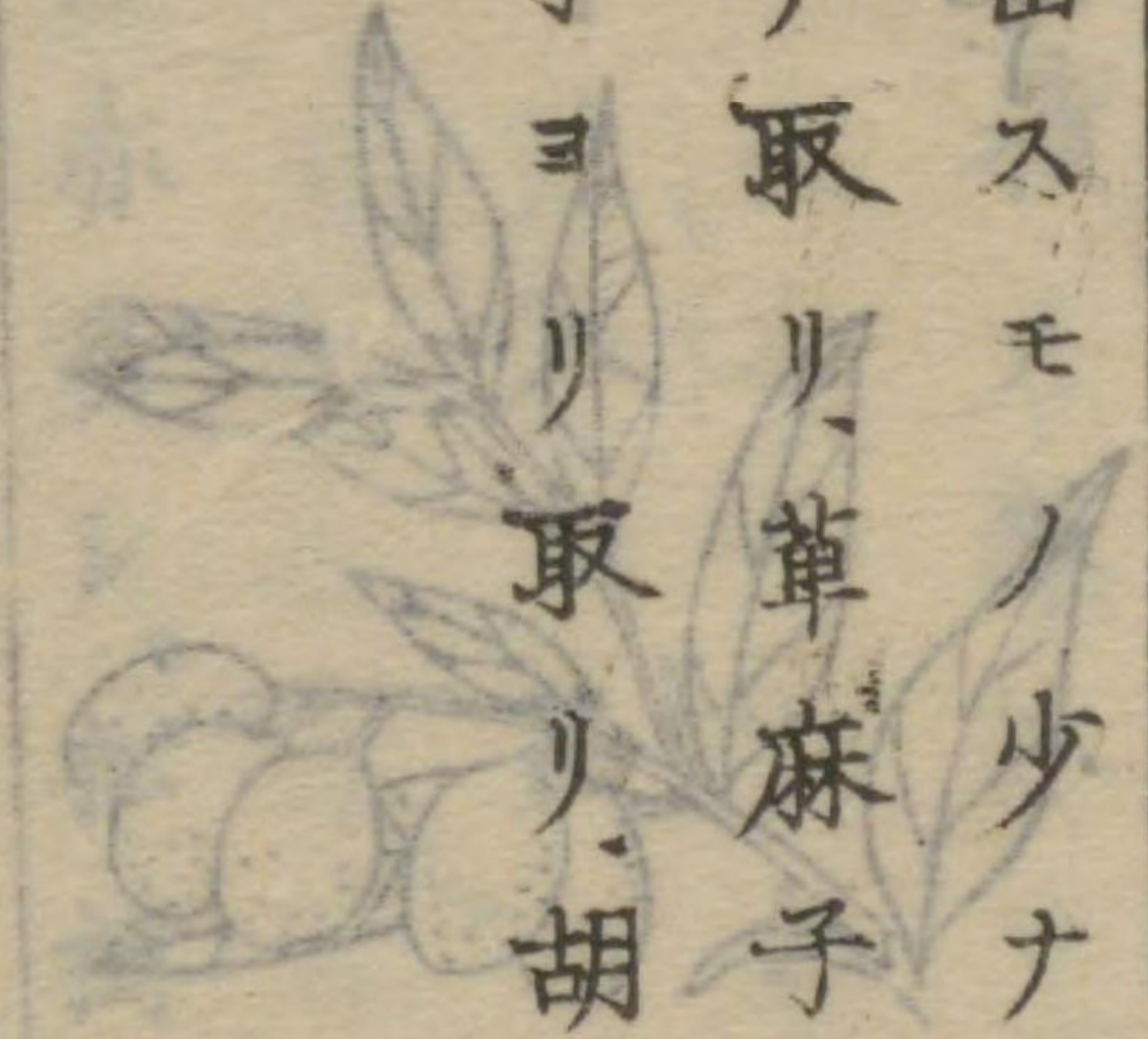
物ヲ染ムル用ニ輸入シ諸種ノ草木ハ
 藥劑ノ用ニ輸入ス木瑠璃木ハ其類
 由本第百四章樹脂樹膠等ノ入口品
 樹木ノ論
 樹木ノ脂ノ膠ヲ出スモノ亦多シ松樹
 ハ松香ヲ出シ樟樹ハ樟腦ヲ出シ一種
 ノエケ^ラー^シヤ樹ハ亞喇比亞膠ヲ出シ
 乳香等ノ膠ハ漆ヲ作リ^{ラビ}亞^ビ膠ヲ出シ
 藥品ニ入ルヘク^{エラス}抹^{ツカ}紙^{ガム}膠トガ^タバ^カ膠

水湿ヲ防クヘク其外別用多シ
 第百五章草木ノ根及ヒ油等ノ
 輸入品ノ論
 草木ノ根ト其他ノ產物ヲ外邦ヨリ輸
 入スルハ有用ナルヲ
 以テナリ薑ハ香料ト
 テ用井黃連、大黃等
 ノ根ハ藥種トシテ用
 井馬蘭ノ根ハ薰物ト



橄欖子

レテ用井、草木類ノ油ヲ出スモ、少ナ
 カラス、橄欖油ハ橄欖ヨリ取リ、草麻子
 油ハ豆ノ一種大ル草麻子ヨリ取リ、胡
 麻油ハ胡麻子ヨリ取ル、
 第百六章 礦産ノ論
 礦物ノ中、多分ハ其礦ニ異ナル物ヲ出
 ス、銅、鉄、鉛、亜鉛等ノ如キ金類ハ、其礦ヲ
 視レハ極テ石ニ似タルモアリ、或ハ粗
 石ニ似タルモアリ、大抵貧人日用ノ道



具ハ、鉄礦ヨリ出テ、諸民必用ノ錢ハ、金
 銀銅ニテ鑄造ス、
 第百七章 徒ニ費ス物品ノ論
 人徒ニ費シ棄ル物モ、有益トナスヘシ、
 銅口柴、紙脚、木糠ハ、貨物ノ詰合ハセニ
 用井ヘク、毛織ノ古キ衣ハ、碎テ再ヒ粗
 布ヲ織ルヘク、木棉ト布ノ裁チ屑ハ、搗
 テ柔カナル粉トナシ紙ヲ製スヘク、破
 レタル硝子ハ、硝子屋エ歸シテ鑄返ス

第百八章 賤價ノ物ノ論
 賤價タル物モ有用トナスヘシ、常ノ粘
 土ハ、寶石ノ様ニ見ユル鈕子ニ造ルヘ
 久、機局ニテ棄ル羊毛屑ハ、牀褥トナス
 へク、仕立師ノ布屑ハ、樹ノ枝ヲ縛リテ
 牆ニヨリ人ヘシ、秋ニ至リ乾タル落葉ハ、
 貧人掃キ取テ牀褥ニナスニ宜シ、
 第百九章 不用ノ物ナキノ論

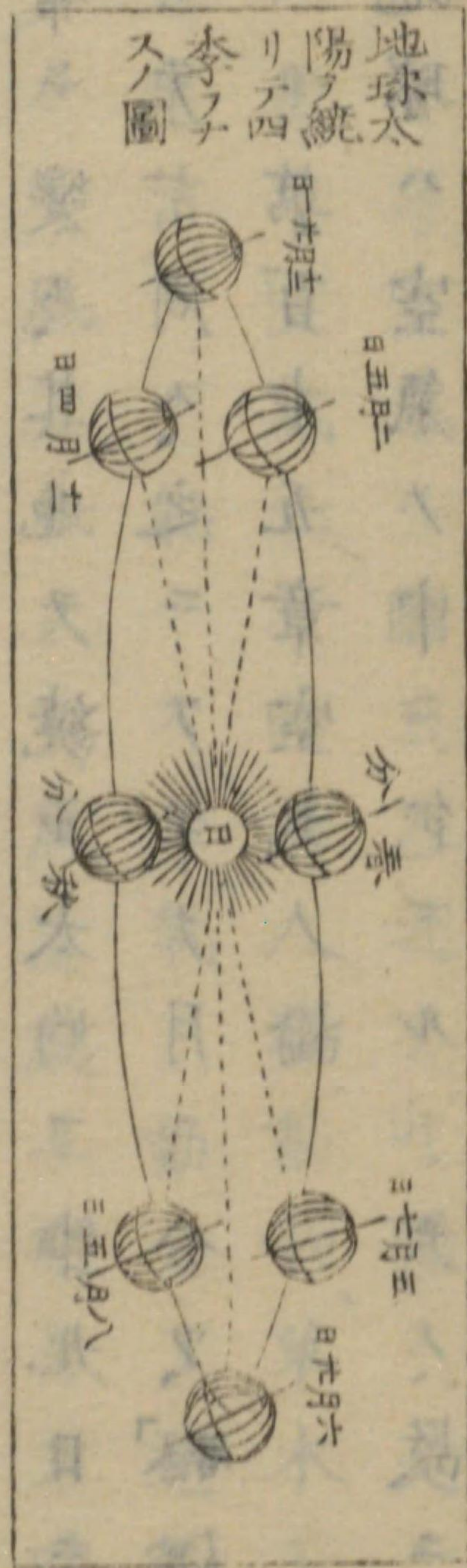
世界ニ一物モ有用ナソリル物ノシ、故
 ニ一物モ棄ツヘキ物ナシ、獸ノ大ナル
 骨ハ、小刀ヤ肉又ノ柄トナスニ用非ヘ
 ク、小ナル骨ハ、搗キ碎テ糞物ノ用ニス
 へク、樹ノ枯レ枝ハ薪トナスへク、橡ノ
 實ハ豕ノ飼料ニスへク、獸ノ皮、角及太
 蹄ノ屑ハ煮テ膠トナスへシ、
 第十四篇 空氣諸天ノ論
 第百十章 地及ヒ宇宙ノ論

地ハ人目ニ見ユル如ク平面ニアラス、
土ト氷ニテ形ヲナシタル一ノ大球ナ
リ、太陽モ人目ニ見ユル如ク東ヨリ西
ニ廻ルニアラス、年毎ニ一度地球ノ太
陽ヲ廻ルナリ、又遠ク見ル星ハ、多分太
陽ニテ、各行星アリテ環リ止マサルヲ、
地球星、水星、金星等ノ太陽ヲ繞ルカ如
シ

第百十一章地極ノ論

若シ一箇ノ橙ヲ巨指ト食指ノ間ニ持
チ、之ヲ地球ニ譬レバ、食指ノ上ニアル
ヲ北極トシ、巨指ノ下ニアルヲ南極ト
ス、橙ノ上下少シク扁タキハ、粗地球ノ
真形ニ似タリ、地ノ體ハ圓ナレバ、二極
有處少シク平面ナリ、二極ヲ名ツケテ
地軸端ト云ス、
第百十二章地ノ運動ノ論
地球ハ毎日一度、南北ノ二極ヲ軸トシ

廻火、又毎年一度太陽ノ匝ル地旋ルニ
 從テ東西ノ半球更ル々太陽ニ向ス、太
 陽ニ向フ處ハ光ヲ受テ明ル久、太陽ニ
 背ク處ハ光ヲ受スレテ暗シ、明ルキヲ
 晝トシ、暗キヲ夜トス、地球ノ太陽ヲ匝
 ルカ故ニ其向キ常ニ變シ、二極更ル々
 太陽ニ向ヒ、是ニテ四時ノ季候ヲナス、
 第百十三章二分二至ノ論
 春ノ季ニ世界中晝夜等シキ長所ニテ



各十二時ナル日アリ、秋ノ季ニ亦同様
 ノ日アリ、此二日ヲ春分、秋分ト名ツク
 夏ノ季ニ晝夜長キ日アリ、冬ノ季ニ
 晝夜短キ日アリ、此二日ヲ夏至、冬至
 ト名ツク、

第百十四章 月ノ論

太陰ハ地球ニ從テ相與ニ太陽ヲ繞リ
 又自カラ地球ヲ繞リ行ク、太空ニ於テ
 太陰ヨリ美シキモ、ハナシ、年中多ク
 ノ夜、太陰ノ光リ人ヲ照ラズ、又其形チ
 常ニ變ス、其地ヲ繞ル太約二十九日ニ
 シテ一周ス、之ニテ年ヲ月ニ分ツ、曆太陰
 第百十五章 空氣ノ論
 地球ハ空氣ノ中ニ包マラル、モ、人故ニ

人身ハ空氣ニ觸レ、又之ヲ呼吸ス、是ニ
 ヲ以テ空氣ナキ時ハ、人類、動物、草木ミ
 ナシ、生活スル能ハス、空氣ノ動ク、速カ
 ナルヲ風ト名ツケ、風ノ旋リ廻ツテ吹
 クヲ旋風ト名ツケ、霧ハ地上ヨリ昇リ
 テ雲トナリ、雲氣ハ凝リ結テ雨トナル、
 第百十六章 氣中景象ノ論
 空氣ノ中ニ、或ハ浮ク、或ハ流レ、忽チ現
 レ、忽チ隠ル、透明ナル光リテ、景象ト

名以久雨ノ降ル時ニ當リ天人對ス側
ニ太陽子リテ雨ヲ照スモノヲ虹ト名
ツケ、太陰ニテ成ルモノヲ月虹ト名ツ
ク、水氣日月ヲ圍ミ繞リテ環ノ如キモ
ノヲ暈ト名ツケ、電氣ノ雲間ヨリ洩ル
、モノヲ電ト名ツク、雲氣モ亦景象ノ
類ナリ、
第十五篇時節ノ論ハ、
第百十七章日ノ區分ノ論ハ、

支那ハ晝夜ヲ十二時ニ分ケ、十二支ヲ
以テ之ヲ名ツク、西洋ハ毎日ヲ二十四
時ニ分ケ、中夜ヨリ正午ニテヲ十二時
ニ分ケ、正午ヨリ中夜ニテヲ十二時ニ
分ツ、日ノ中ヲ分ツテ、朝、午前、正午、午後、
夕、夜、中夜ノ數刻トス、日出ヨリ日没ニ
テヲ晝トシ、日没ヨリ日出ニテヲ夜ト
ス、日出ノ前ヲ曉ト名ツク、日没ノ後ヲ
昏ト名ツク、

春ノ第百十八章月及季候ノ論
 十二箇月ヲ一ノ年トス、支那ニハ、十九年
 ノ内ニ七ツノ閏月アリ、西洋ニハ、四年
 ノ内ニ一ツノ閏日アリ、支那人一月ハ、
 三十日ノモノアリ、二十九日ノモノアリ
 リ、英國ノ如キハ、月ノ長サヤ閏日ニ於
 テ歌アリ、中者ハ、五月ハ、十二日
 ノ四六九、十一月ハ、三十日ニテ、十四
 日、殘ル余月ハ、三十日、今日ハ、二支ニ

二月ノ終、三十日、去チカラ、以テ二
 四年ニテ、一日ノ閏、支那ニハ、西
 英國ノ月ハ、各名アリ、年ニ四時ノ季候
 アリ、三箇月宛ヲ以テ一季候トス、一ノ
 支那ニハ、第百十九章月トハ、論キ、
 支那ニハ、二十日ヲ一旬トシ、一月ノ
 内ヲ上旬、中旬、下旬ノ三ツニ分ツ、西洋
 ニテハ、旬ノ名ナク、七日宛ヲ一週トス、
 俗ニ之ヲ一ツノ禮拜日ト名ツ、ウイーク一週

此日ノ間、各ノ用ニ日、月、火、水、木、金、土
ノ定名アリ、俗ニ之ヲ禮拜ニ、禮拜ニ、杯
ト唱ルルハ、西洋ノ日ヲ別ツノ法ニ、非ス
支那第百二十章花甲ト百年ノ論
支那トテハ、世系ヲ記スニ、六十年ノ花
甲ヲ用ヒ、黃帝六十一年ヨリ始メ、一周
ニテ復タ始メ、循環止マラス、今年ハ第七
十六ノ花甲初年ニテ、乃チ甲子ナリ、西
洋ニテハ、世系ヲ記スニ、百年ヲ以テ一

世トシ、耶蘓誕生ノ前後ニテ、歴史ヲ二
段ニ分チ、一ハ上帝人類ヲ造リ創メシ
ヨリ耶蘓誕生ニ至ルマテニテ、五十四
世ト計一載ナリ、一ハ耶蘓誕生ヨリ今
日ニ至ルマテニテ、十八世ト六十四載
ヲ計ス、西ニテハ、東ニテハ、四十六
第百二十六篇地球分域等ノ論
第百二十一章四方ノ論
人若シ正午ノ時ニ當リ、太陽ノ方ニ望

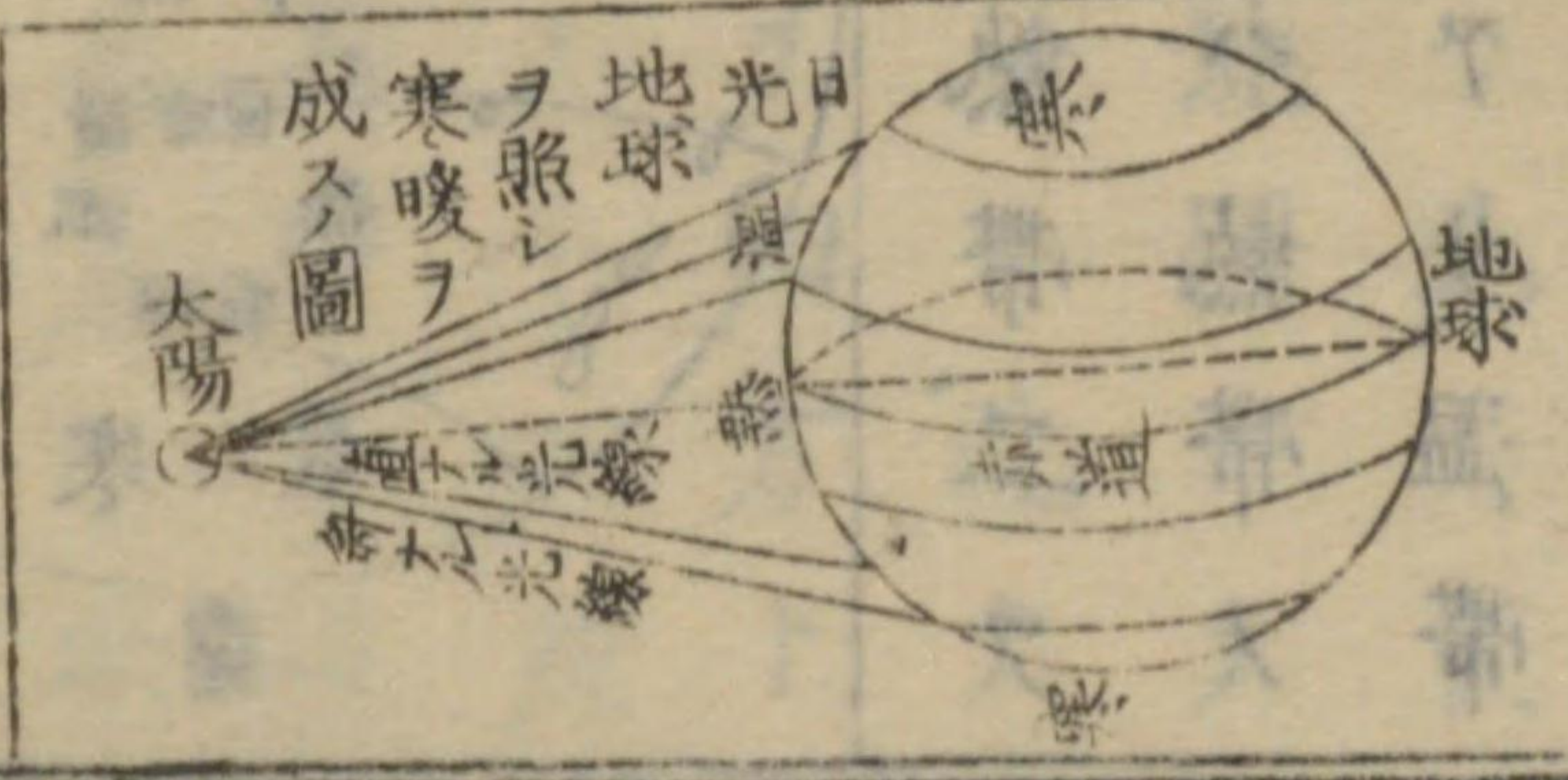
管子地員篇

又余、面ノ方ハ南ニテ背ノ方ハ北ナリ
左ハ東ニテ右ハ西ナリ若シ地圖ニテ
言ハレバ圖ノ下ニ北ニテ上ニハ北ナ
リ、左ハ西ニテ右ハ東ナリ、之ヲ四方ト
名ツク
論 第一百二十二章赤道及七五帯ノ
地圖上ニ於テ、南北二極ノ中間、地體ノ
最大ノ處ニ一ツノ線アリ、赤道ト名ツ



久、地圖ヲ五帯ニ分ツ、一ツノ熱帯、二ツ
ノ温帯、二ツノ寒帯ナリ、赤道ハ熱帯ノ
中ニアリ、二極ハ寒帯ノ中ニアリ、温帯

熱帯ハ寒帯ノ間ニアリ、
第百二十三章、熱帯ノ論
若シ地球儀ノ中央ヲ一ト筋
ノ闊キ帯ニテ、東西ニ引キ廻
シ、球面三分ノ一ヲ蓋フヘハ、
之ヲ以テ熱帯ニ比スヘシ、此
帯ニ於テハ、至テ大ナル、至テ
美シキ、至テ悪シキ動物多ク居ル、亦コ
ニ有用ナル動物ハ固リ多ケレ、生

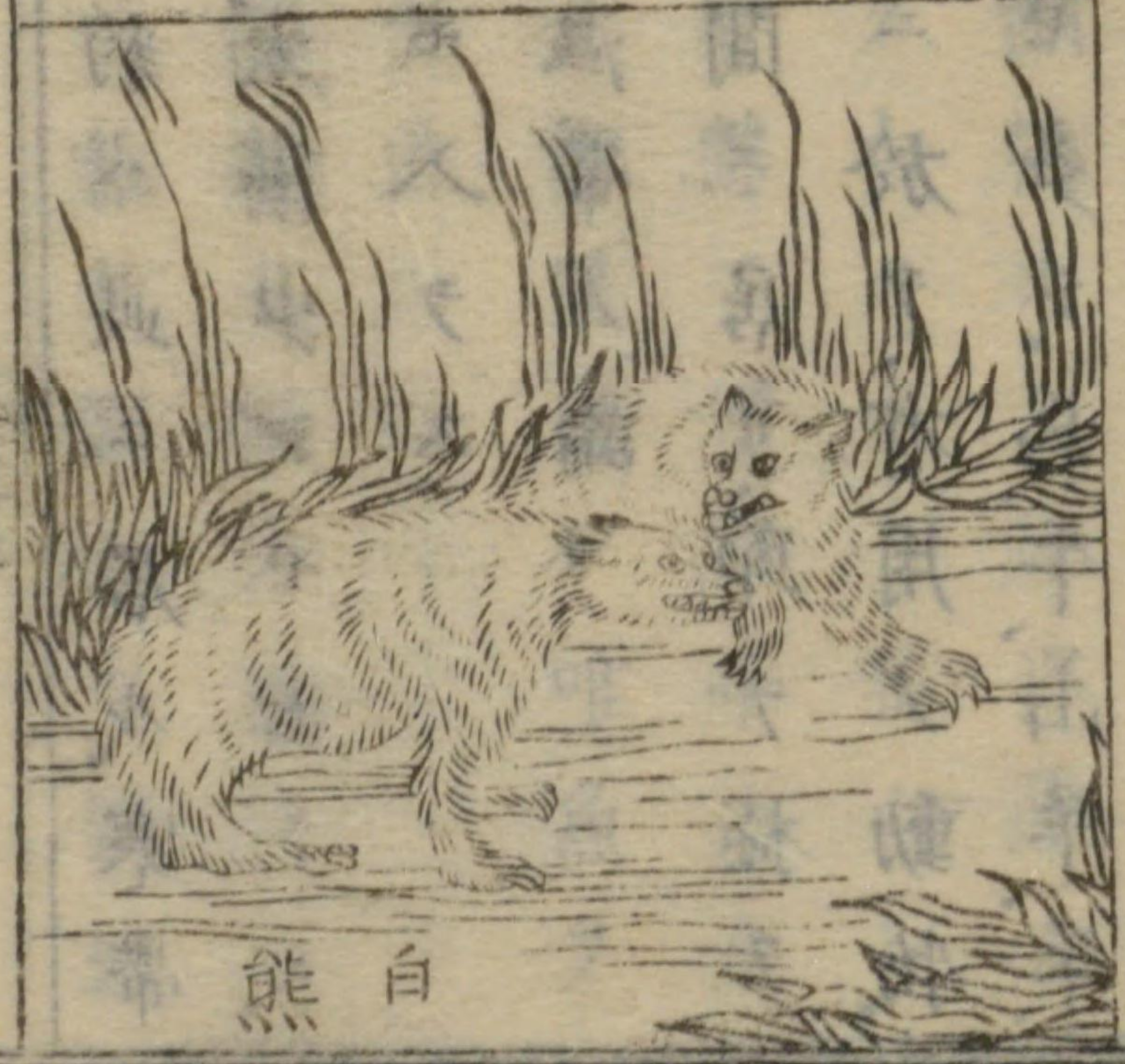


キ物ヲ捕ハ食フ、猛キ禽獸、又、毒アル蛇
類、害アル蝨、虫ノ類多シ、

第百二十四章

寒帯ノ論

寒帯ハ南北ニ極ヨ
リ、温帯ノ界ニ至テ
止之、大約ニ極ヨリ
赤道ニ至ル距離ノ
四分ノ一ナリ、白熊



白熊

馴鹿、犬、鯨魚、海牛、海豹ハ此ニ居ル、寒帶
ニ於テ數箇月ノ間、太陽少シモ出テス、
又數箇月ノ間少シモ入ラズ、

第百二十五章 温帶ノ論

温帶ハ熱帶寒帶ノ間ニ居リ、即チ極テ
快キ地方ナリ、此帶ニ於テ有用ノ動物、
別帶ニ比スレハ尤モ多シ、馬、牛、山羊、羊、
鹿等ノ獸類、鷹、鳩、雞等ノ鳥類アリ、又
有用ナル魚モ亦多シ、

第百二十六章 諸帶土人ノ論

熱帶ノ土人ハ多分皮膚ノ色全ク黒ク、
或ハ淺黒シ、生質ハ懶惰ナリ、ニ温帶ノ
土人ハ皮膚ノ色全ク白ク、或ハ稍白シ、
生質ハ出精ニシテ智慧アリ、寒帶ノ土
人ハ身體小サクシテ智慧淺シ、唯魚ヲ
捕ヘ獸ヲ獵リテ生活ス、

第百二十七章 諸般氣候ノ論

赤道ニ取モ近キ帶ハ熱氣烈シク、漸遠

帯ハ熱氣モ次第ニ減ス、西洋ノ學者
 ハ、熱ノ多少ニ從ヒ、球面ヲ數般ノ氣候
 分ツ、赤道ノ左右ハ熱氣烈シクシテ
 草木生ヒ茂リ、年中冰雪ヲ見ス、二極ノ
 處ハ年中冰雪消エス、故ニ草木モ生セ
 ズ、人畜モ居ラズ、金ハ白銀ハ銅ハ
 第百二十八章諸氣候土產ノ論
 諸氣候ノ第一候ハ、熱氣甚シク、薑、荳蔻、
 胡椒等ノ如キ香料、椰子、麵果等ノ如

キ涼果ヲ産ス、第二候ハ、肉桂、沒藥、乳香
 等ノ如キ香料ト、波羅棗子、酸果等ノ如
 キ美果ヲ産ス、

アノミ
波羅棗子
エッセル

波羅
一名
鳳梨

第百二十九章諸氣候
 土產ノ續論
 第三候ハ、棉、甘蔗、米、蜀黍、杏
 仁、棗子、煙草ヲ産シ、第四候
 ハ、橙、茶、橄欖、諸瓜ノ類ヲ産
 シ、第五候ハ、無花果、桑、厚、浮



皮樹葱頭等ヲ産ス此氣候ニ至リ始メ

テ葡萄酒ヲ作ルヘシ

第百三十一章諸氣候土産ノ續論

第六候ハ草ノ繁キ平原多以大麥ト葡

萄ヲ種ウヘク第七候ハ亦葡萄酒ト穀ヲ

多量ニ生シ第八九候ハ大林擒大麥等

ヲ産シ第十候ハ至テ善キカシ檉ト榆ト小

果ノ類ヲ生シ第十一候ハ麻類ヲ産シ

第十二候ハカラスムキ燕麥小麥及ヒ杉松ノ類ヲ

生ス、ハ第百三十一章諸氣候土産ノ論

氣候ノ極テ寒キ處ハ高キ樹木ノ久唯

矮キ灌木及ヒ苔トト等トアルノニ寒帶ニ

近キ處ハ全ノ草木ナク年中氷雪消工

ス、上ニ論スル如ク氣候ニ應シ各宜シ

キ草木アルヲ併シ此處ヨリ暖ナル氣候

ニ産スル草木モ次ノ寒キ地方ノ藪ハ

レテ暖ナル處ニ亦屢生スルトアリ草

木ノ柔軟ナルモ巧ニナル法ニ
 培ヒ養ハシ始テ生長ス、
 第百三十二章諸氣候土産ノ續
 論
 草木ノ諸氣候ニ生スルモ、
 間熱國ニ産スル草木ノ中、
 寒地ニ生スルモアリ、
 國ヨリ種々ノ草木ヲ移シ、
 植ル、是ニ由レハ、地球上ノ
 草木ハ、其

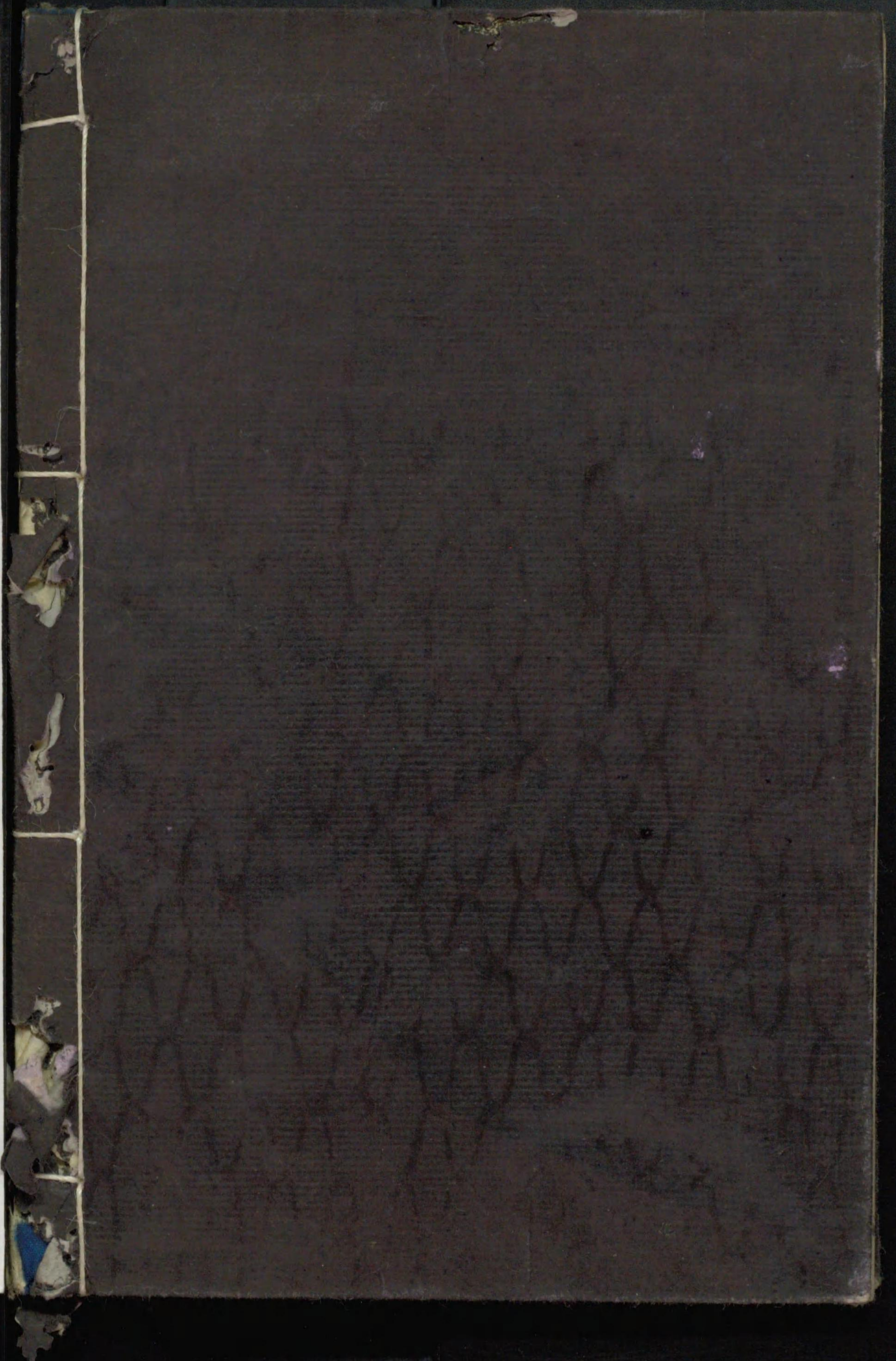
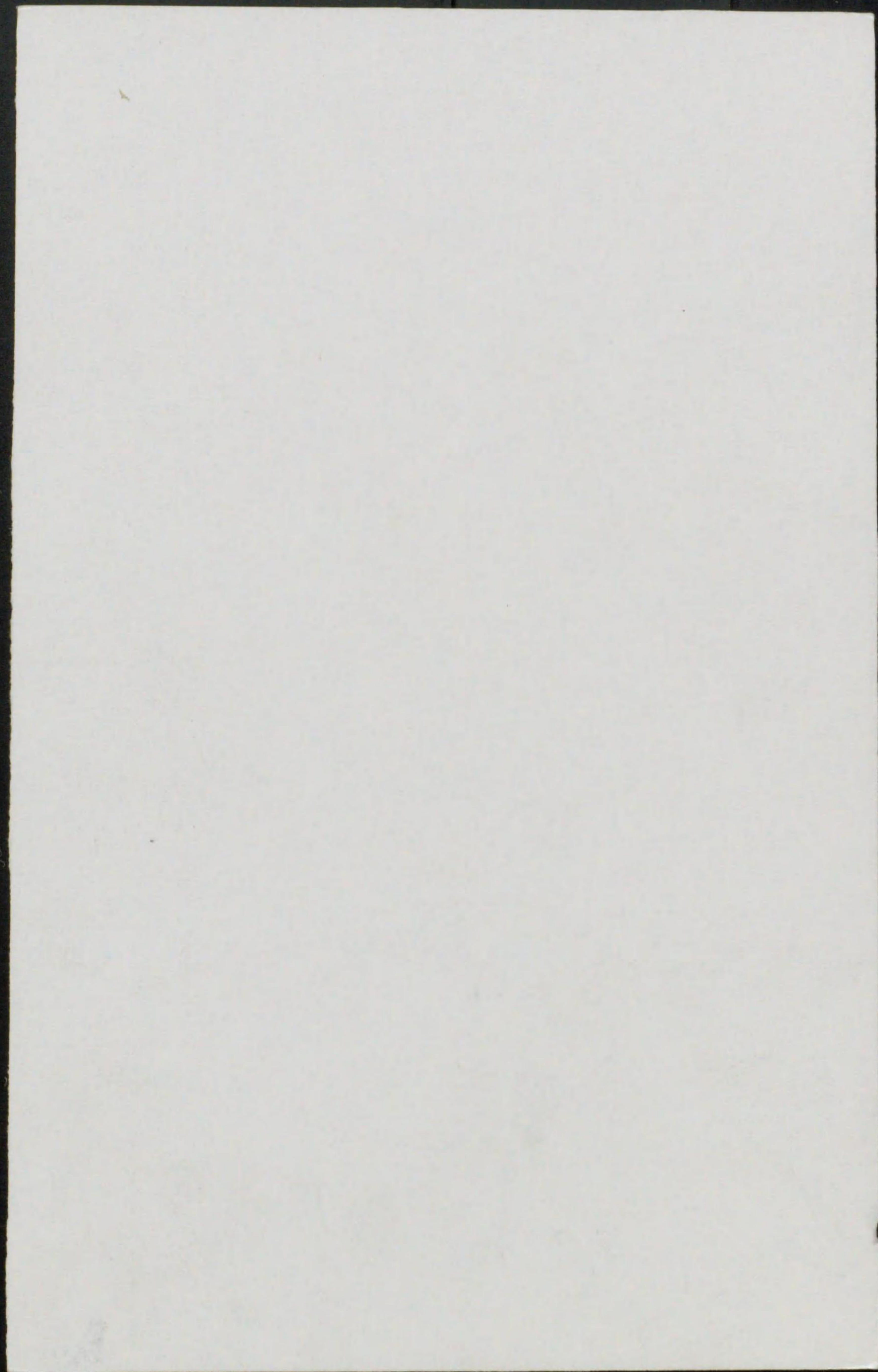
原土ノ寒暑ニ拘ラス、植ウル人サハ草
 木ノ性ニ順ヒ、注意シテ培ヒ養ハシ、地
 ヲ易ルニ生セサルナシ、

智環啓蒙和解卷之中終

智瑞启蒙和角 卷中

三十九

智瑞启蒙和角 卷中 三十九
培基養心 始天生長 氣血 筋骨 精神 智慧 德性 誠心 正氣 浩然 天地 萬物 一體 同力 共成 大道 無疆 萬古 流芳 永耀 乾坤 日月 星辰 齊照 山川 草木 鳥獸 魚鱗 莫不 咸知 此理 誠哉 聖賢 之學 豈可 輕視 哉

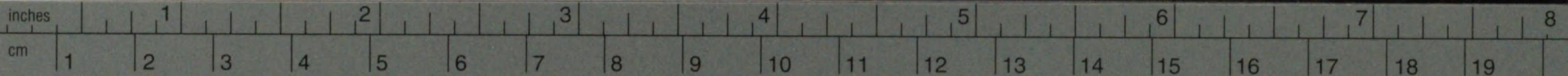
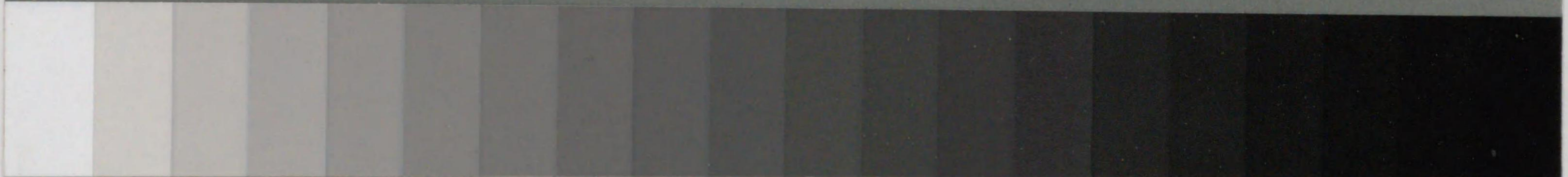


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

